

～はなのえん～

花宴

筆（あやめ入居者：西村静代様）



発行責任者

社会福祉法人積慶園

特別養護老人ホーム山科積慶園

施設長 古村正哉

京都市山科区北花山大林町34番地

電話(075)583-6277 FAX(075)594-2101



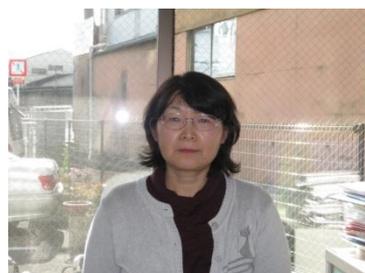
第10号

発行日平成24年12月1日(冬号)



考える力
を養う

特別養護老人ホーム山科積慶園
ユニットリーダー 上木康平



心の通い合い
を大切に

居宅介護支援事業所「絆」
ケアマネージャー 高田睦子

こんにちは。3Fなでしこ所属の上木です。
今年8月より3Fなでしこユニットリーダーとして
従事しております。

フロア異動、そしてリーダーと最初は少し戸惑いもあり、私自身最初はなかなか地に足がついていない状態で、スタッフ・ご利用者様に迷惑をかけてしまっていた日々でした。しかし、他部署の方を含め周りのスタッフに支えられ、何とか日々の業務・ケアに携わる事ができました。まだまだ未熟者ですが、ユニットの責任者としてしっかりと自覚を持って業務に勤しんでいきたいと思っております。

現在の高齢者介護の現状として、時代の流れと共に高齢者の増加により、ニーズの多様化がどんどん進んでいます。私自身、日々のケアを通じて「何が必要なのか?」「どうすればよいのか・・・」等ニーズの把握は日頃意識して考えているつもりですが、まだまだ力不足だと痛感する事も多々あります。与えられた事を行うだけでなく、しっかりとニーズを把握し、その方に最適なケアを提供していく様、スタッフ個々に「考える力」を養うのも今後の介護の重要な仕事であると思っております。少しでもご利用者様のニーズに対して最適なケアが提供できる様、今後ともスタッフ一丸となり頑張っていきたいと思っております。

こんにちは。居宅のケアマネをさせて頂いております、高田と申します。

今年3月から「絆」に勤めさせて頂いております。介護保険制度も変化する中、日々研鑽して参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

居宅介護支援事業「絆」は1階の事務所の横にあります。在宅で介護が必要となりましたら、どうぞお気軽に声をかけて下さい。ご利用者様との出会い、心の通い合いを大切にしたいと願っております。介護をする側、される側、それぞれの身体状況や、ご本人の置かれている環境・事情は様々ですが、ご家庭で安心して毎日を過ごして頂ける様、介護保険サービスを提案させて頂いております。ご自分の残存能力を落とさないように、そして介護で共倒れにならない様に、息抜きをして頑張り過ぎは禁物です。12月に入り、寒さがひとしお身にしみます。風邪や転倒に充分注意して良い、お年をお迎え下さい。今年はお世話になりありがとうございました。また来年も、どうぞ宜しくお願い致します。



10月の行事



8月 《夏祭り》

みんなで楽しく盆踊りで盛り上がりました



9月 《ラポースーパーリオ》

素敵なおじさま達の素晴らしい演奏、いつまでも聴いていたかった



《ミュージックアンサンブルヒーポ》



本格的な美しく迫力のある歌唱で、みんなうっとりでした



《三味線》

迫力たっぷりのプロの三味線と切れのある美しい手踊りを満喫させていただきました



10月

《秋の外出》



堅田へ草津へとお昼御飯もお寿司を食べた楽しかった



11月

《紅葉ドライブ》

今年のもみじは赤も黄色も色鮮やかで素敵でした。



12月の予定

12月はクリスマス会&もちつき大会です！



編集後記 * * * * *

暑かった夏も過ぎ、秋を一気に乗り越えて、今は冬を体感している今日この頃ですが、皆様におかれましては体調面等々お変わりございませんか？

冬は何かと病気にかかりやすい季節ですので、体調面のケアを万全にすることをおすすめします。

次号では、クリスマス会や開所4周年記念等々の状況をお知らせ出来ると思います。機関誌『花宴』も気がつけば第10号の発刊と相成りました。これからも園の行事や催し等を皆様にお伝えしていけるように頑張りたいと思います。
(亀苔)



2F さくら・やまぶき合同レクリエーション（京都 嵐山）



秋のお茶会

11月12日にお茶会を開催しました。今回のお茶菓子は秋ということで黄色と橙色が絶妙に合わさった「紅葉のきんとん」を用意しました。今回も入居者の方が「よ〜！！」と、大きな掛け声の後にお茶を点てて職員にふるまって下さる時間がありました。みなさま、いつもよりちょっとおしゃれをして背筋をのばして参加されていたように感じました。



医務室だよ！～

第10回「ノロウイルスってどんな病気!？」



ノロウイルスは、乳幼児から高齢者に至るまで広い年齢層で、胃腸炎を引き起こすウイルスで11月から3月の冬季に発生する事が多く下痢・嘔吐を引き起こす事が特徴です。

排泄物などが適切に処理されないと、ウイルスが床に残り乾燥すると埃と共に空気中に舞い、感染を広げる原因となります。また、高温や消毒液に対する抵抗力も強く、水中でも活動の減退は見られません。感染ルートはほとんどが経口感染です。ウイルスに汚染された食品を生もしくは加熱が不十分な状態で食べると感染する可能性があります。潜伏期間は、24～48時間で、下痢・嘔気・嘔吐・腹痛を起こし、37～38℃くらいの熱が出ます。通常1～2日で治癒しますが、高齢者や乳幼児では激しい下痢・嘔吐により脱水症状を起こすことがあるので、注意が必要です。治療としては、対処療法となり、脱水予防と、強い下痢止めは使用しないことです。無理に下痢を止めてしまうとウイルスが体の中に溜まり、症状を悪化させてしまいます。

食品などを触る際には、手洗いをしっかり行い、タオルなどの共用はやめましょう。➤

下痢や嘔吐のある時は、食品などを直接触れる作業はしないようにし、食品は必ず85℃以上1分以上加熱させましょう。汚染物の処理をする時には、必ずマスクと手袋を着用し、処理した袋はしっかり縛っておき、衣類や食器などは、希釈した漂白剤でしっかり消毒しましょう。予防法をしっかり守り、感染を起こさないようにしましょう。

ユニットの行事



紅葉ドライブ

11月8日あおいユニットは8名の参加で紅葉ドライブに行きました。朝晩の冷え込みで山々の木は見事に色づき始めました。途中、和食レストランで昼食を食べたり、琵琶湖ホテルの裏の公園で写真を撮ったり、井筒八ツ橋に寄ったり、とても楽しい1日でした。各階ユニットも紅葉ドライブ実施中です。

(大屋)



ユニット外出レクレーション写真



はぎ (くら寿司)



ふじ (和食さと)



あやめ (堅田 米プラザ)



ききょう (堅田 米プラザ)

秋の運動会



10月13日、1階エントランスホールで「ミニ運動会」が行われ、およそ30人の利用者様が参加されました。

今年の種目は「玉入れ」。各階のユニットで紅白のチームに分れ、椅子に座ってカゴを囲み、ホイッスルの合図でカゴに玉を投げ込みます。歓声・嬌声でBGMもかき消える程白熱した試合が行われました。皆さん楽しみながら身体を動かされていました。試合終了後には表彰式があり、皆さん嬉しそうに賞状を受け取っておられました。

(奈良井)

